

まえがき

本論文集は、井上史雄先生の古稀を記念して、東京外国語大学、明海大学で御指導を受けた者、また、井上先生との長いおつきあいの中でお祝いを述べたい者が集まり、日頃の御恩に感謝し、日本の社会言語学発展へのご功績を讃えて作成したものです。

世の中広しといえども、「古稀祝い論文集」でオンラインというのは、初めての試みといってよいでしょう。これは、井上先生からの御発案でした。オンラインですと、直接世界に発信することが可能で、量の制限に拘束されることなく、経済的であるという利点もあります。新しがり屋の井上先生らしいアイデアだと思いました。しかし、これは若い研究者に研究の成果を発表する機会を少しでも多く提供したいとお考えになっている井上先生のご配慮であると知って、井上先生の夢を実現させることに少しでもお役に立ちたいと思い世話役を申し出ました。幸いなことに、金順任さん、阿部新さん、高丸圭一さん、西川寛之さんが協力を申し出てくださり、また、明海大学から「明海日本語 18 号増刊号」として、オンラインアップすることにご快諾いただき、ここに「井上史雄先生古稀祝いオンライン論文集」の「アップ」が実現できました。

論文集は、お祝いの言葉、論文 16 本、研究ノート 7 本が収録されています。目次は「音声」「方言」「日本語教育」「言語景観」「言語行動」「外行語」等の分野別に構成されていますが、井上先生の御研究は多岐にわたり、今まで言語学という枠組みでは扱われることがほとんどなかった新しいテーマにも着手なさってきました。井上先生のご指導を受けた者の研究にもそれが反映され、社会言語学の範疇の広さと将来の可能性を窺わせる論文が集まりました。

井上先生の子供の時の思い出として、小学校に入るか入らないかの時期に、家のそばで遊んでいると、どうも鶴岡方言調査の調査官らしき人物に声をかけられて、地名の説明を求められた記憶があると伺ったことがあります。井上先生は、言語学者になることが運命付けられていたのでしょうか。井上先生の手がけられた社会言語学という分野は、今でこそ言語学の中でも人気のある分野ですが、先生が研究を始められた頃は、社会と言語のつながりを分析する重要性に理解を示す人は少なかったかと推察いたします。そのような環境の中で、日本における社会言語学分野を発展させてきた井上先生のご功績は、日本の言語学研究史に永久に残るものでしょう。

私は、論文集への寄稿を呼び掛け始めた当初から、副題について考えていました。いくつか候補がありましたが、なかなか絞り込めませんでした。いま、寄稿された論文を読んで迷うことなく「進化する社会言語学」と決めることができました。常に新しい研究テーマや分析方法に挑戦している井上先生の飽くなき探求心に負けることなく、社会言語学研

究に取り組んでいきたいものです。

最後に、4か月以上にわたって、細心の注意を払いながら編集作業のほとんどを引き受けてくださった川上摩里子さんに感謝の意を表したいと思います。

2013年9月10日

井上史雄先生古稀祝いオンライン論文集作成編集

田辺和子